

会 議 録

会 議 名	令和3年度文化によるまちづくり推進委員会（第1回）	
開 催 日 時	令和3年7月29日（木） 18時～20時	
開 催 場 所	市役所3階 第2委員会室	
出 席 者	齊藤 大二郎、比嘉 朝康、岸田 茂、池上 雅代、 城戸 邦之、坂井 久美子、縄田 五月、穂本 真一、 竹内 道子、松永 進、湯城 明彦、岩本 信子、 塩田 賢二、縄手 秀樹	委 員 数 17人 出 席 者 数 14人 欠 席 者 数 3人
欠 席 者	廣田 由実、原 雅典、中戸 千恵	
事務担当課 及び職員	市民部文化スポーツ推進課 市民部：川崎部長 文化スポーツ推進課：石田課長、丸田、奥 / 文化会館 渡邊館長	
会 議 次 第	1 辞令交付 2 市民部長あいさつ 3 委員及び事務局の自己紹介 4 委員長、副委員長の選出について 5 議題 (1) 今年度の文化によるまちづくり推進委員会の役割 (2) 現・文化振興ビジョンの検証 6 その他 次回会議について	
事務局	次第4 委員長、副委員長の選出について 推進委員の互選によって、委員長は岸田委員に決定。副委員長は齋藤委員を指名し、決定。	
	次第5 議題 (1) 今年度の文化によるまちづくり推進委員会の役割 資料1、資料2に沿って説明。	
	(2) 現・文化振興ビジョンの検証 資料3、これまでの市文化振興における変遷（A3サイズ）、検証資料1 に沿って説明。	
委員 (質問)	検証資料1の「文化活動に対する支援」のうち、文化協会の加入団体数の推移について、減少傾向にあることに理由はあるのか。	
委員 (回答)	教育委員会から文化協会が独立した際には、臨時職員を採用したが、これに係る人件費を予算や市からの補助金では賄えず、会費の金額を上げたこ	

	と、団体の高齢化による後継者不足から団体が活動を継続できないことが理由である。
委員	高齢化が問題視される反面、ゲームやアニメ、漫画、e-sports 等が若者にとっての文化であると考え。世代によって捉える「文化」が違うため、より広い意味での文化に視点を向けて計画に盛り込んでどうか。
委員	文化財については、今回策定する文化振興ビジョンに入らないとあるが、そのことを計画に表記しなくてよいのか。
事務局	今後の会議で、表記するかどうかを協議したいと考えている。
委員	若者、親世代、高齢者などさまざまな世代による、文化に対する意見の聴取を行う必要があると考える。
委員	方向性について賛成である。若者から意見を募る方法として、実際に大学生などに会議に参加してもらってはどうか。もしくは、若者を対象にアンケートを実施してはどうか。
事務局	若者から意見を募る方法として、現在、第二次山陽小野田市総合計画に基づく中期基本計画を策定中であり、市民アンケートに若者に対するアンケートを取り入れることが可能か検討する。また、アンケートの方法を郵送で行うか、SNS等を活用して行うかなどは予算も勘案して事務局で検討する。
委員	例えばストリートピアノの演奏を聴いて、音楽文化を感じるなど、若者が日常生活の中で身近に文化を感じられるようなものを市をあげて取り組んでみてはどうだろうか。
委員	山陽小野田市は身近に文化がないわけではなく、文化はあるが市民が足を運ばないということが問題なのではないか。
委員	そもそも文化とは何か。文化が人生に与えるものをもう一度再確認してはどうか。
委員	普段から知識や関心を持っていないと、イベントに足を運ぼうとする人は少ないと思う。特に若い親世代はある程度著名な人を呼ばないと、イベントには来ないと思う。そのため、若者よりもまずは大人から体感して感動してもらうような仕組み作りが必要ではないかと思う。

委員	文化施設等のホールで体感することも大事だが、まずは図書館などで開催される、より身近なイベントに足を運ぶことが大事ではないか。
委員	<p>さまざまな文化のジャンルが連携して、情報発信をしていく必要がある。</p> <p>今回の会議では、資料3の「1 市民文化活動の充実と支援」まで検証をした。資料3の2「活動の場とその整備」については、検証資料2を基に持ち帰って各自検証をしていただき、第2回会議の冒頭で内容について協議する。</p> <p>また、第2回会議では、資料3の7ページ「6 推進体制の確立と団体の支援」まで検証する予定。</p>
事務局	<p>次第6 その他</p> <p>第2回、第3回の会議の日程案について報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回会議 8月17日(火)～31日(火) ・第3回会議 9月21日(火)～30日(木) <p>上記の日程で、改めて委員の都合を確認し、日程を決める。</p>